

# CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

発行日：毎月 10 日・20 日・月末  
創刊日：1999 年 12 月 8 日  
編集 / 発行：橋本 啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 8. No. 3 2006 年 1 月 31 日号

編集: [editor@cna.jp](mailto:editor@cna.jp) 広告: [pr@cna.jp](mailto:pr@cna.jp) 読者登録: <http://cna.jp>

Copyright 2006 CNA Report Japan. All rights reserved.

## ニュース項目

### 日本テレコム、マルチデバイス、マルチプラットフォームに対応したカンファレンスプラットフォームサービス

日本テレコム株式会社(東京都港区)は、2005年1月から「カンファレンスプラットフォームサービス」を開始。同サービスは、マルチデバイス(テレビ会議専用端末やパソコンなど)が、マルチプラットフォーム(ISDN、インターネット、VPN)に関係なくシームレスにコミュニケーションが行えるASP型サービス。

同社では、2002年2月に初めてテレビ会議、電話会議の多地点接続サービス「J-Session(Jセッション)(TVミーティング、でんわミーティング)」サービスを開始。その後2003

年2月にWeb  
◆ ご利用イメージ  
会議サービス  
(Web コラボレーション)を開始し、名称を「Synchronet(シンクロネット)」と改称した。2004年3月にはSynchronet マネージドテレビ会議サービス

を開始、同年10月にはテレビ会議専用端末の提供においてポリコムと提携。

カンファレンスプラットフォームサービスは、Web コラボレーションとTVミーティングを統合する位置づけにあり、それに加え、インスタントメッセージやグループウェア、3G携帯電話との連携も視野にある。

カンファレンスプラットフォームサービスの強みについて、

日本テレコムユビキタス事業部カンファレンスサービス部リーダー須藤康二氏は、以下のとおり説明する。「日本テレコムのサービスの強みは、お客様のワークスタイル変革や新しいビジネスモデルの創造に向けて、多様なコミュニケーション手段を提案できること。サービスは、簡単で安価に導入が行え、多機能で且つ場所や端末、回線に制限されずに利用できるメリットがある。また、導入から利用まで万全のサポートを提供する。」

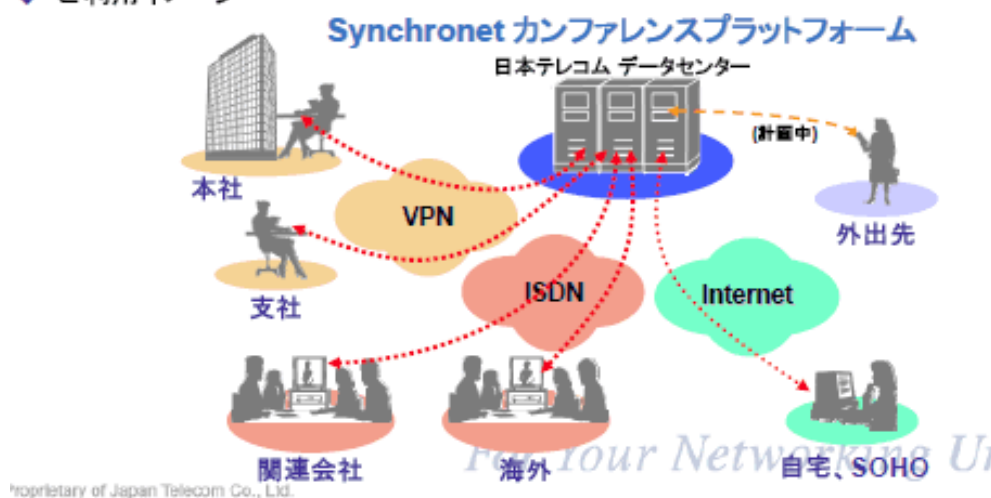
カンファレンスプラットフォームサービスは、大きくわけて2つのサービスからなる。(1)共有サービス、(2)専有サービス。

共有サービスは、ISDN やインターネットを利用して、日本

テレコムのデータセンターに設置した共有のMCU(多地点接続装置)やカンファレンスサーバー(ウェブ会議用)に接続する。ユーザーはサービスの予約を事前に行い

従量課金にて利用する。ISDN 対応のテレビ会議専用端末をもっと有効に活用したい、使った分だけの支払いにしたい、海外拠点からは既存のISDNを使いたいなどのニーズに適する。

また、専有サービスは、IP-VPN やインターネット VPN を使い、ユーザー毎に専用に設置した MCU やカンファレンスサーバーを日本テレコムのデータセンターで提供する。



そのため、予約は不要で、定額料金で使い放題となる。定額であるため、テレビ会議やウェブ会議を利用する機会が比較的多い、自社でMCUを所有したいが、管理が面倒、必要ときに予約無しですぐに多地点の会議を行ないたいなどのニーズに適する。

カンファレンスプラットフォームで提供されているウェブ会議サービスでは、PC、マイク、カメラで映像や音声、データ共有(マイクロソフトオフィス、AutoCADなど)などの会議や、ウェブでのプレゼンテーションが行える。特長としては、最大9映像の表示が可能、話者切り替え機能(音声を検知して話者の画面に自動的に切り替える機能)、参加者名の表示、13種類の画面のレイアウトの選択が可能。日本語、英語、韓国語、中国語など9言語に対応している。また、アプリケーション共有、共同編集作業、ホワイトボード、チャット、ファイル送信をサポートしている。



#### カンファレンスプラットフォームで提供されているウェブ会議サービス

カンファレンスプラットフォームで会議を開催するには、ウェブから予約、あるいは電話からの予約の2通りある。また、利用履歴、つまり月ごとなどの利用料金の明細が参照できる。

サポートセンターは、24時間365日、日本語と英語2カ国語でオペレータが対応する。

VPNを利用する場合は、日本テレコムが提供する、IP-VPN(ULTINA IP-VPN)、広域イーサネット(ULTINA

Wide Ethernet)、インターネットVPN(ULTINA Internet)から用途に合わせてVPNサービスを選ぶことが可能で、さらに、マネージドTV会議サービスを利用することにより、テレビ会議ネットワーク構築を行うために必要なテレビ会議端末、ネットワーク機器、導入、保守等のサービスを一括して受けることができ、運用・サポート窓口の一元化が実現する。

#### NTT マイクロシステムインテグレーション研究所、遠隔地間でバーチャル空間を実現するミラーインタフェースを開発。事業化を積極的に進める。



CNAレポート・ジャパン編集長 橋本(左側) 相手側にも同じシステム構成(カメラ、ディスプレイ、PC)。ミラーインタフェースは、お互いの映像を重ねる処理(鏡像反転)をする。中央には共有されたパワーポイント資料。上部は操作ボタン。タッチレスでタッチすると各種操作(スライド送りなど)が行える。

NTT マイクロシステムインテグレーション研究所(神奈川県厚木市)は、遠く離れた人とバーチャル空間を共有しながらコミュニケーションを行えるシステム「ミラーインタフェース」を開発。2003年2月頃から「ミラーインタフェース」の開発に着手し、数年で完成させた。

ミラーインタフェースは、ネットワークを使うタイプと、ネットワークを使わないスタンドアロンタイプの2種類がある。ネットワークを使うタイプだと、基本的に必要な構成機材は、Windows ベースの PC、ディスプレイ、カメラの3点で、ネットワークには広帯域の IP ネットワークを利用する。ディスプレイは、どのディスプレイでもかまわないが、空間を共有するとなると人間のリアルサイズに近い大型のプラズマディスプレイなどが最適。

ミラーインタフェースを利用するには、まず、A 拠点と B 拠点にそれぞれ PC、ディスプレイ、カメラを対向で設置し、A 地点の映像と B 地点との

映像をネットワークでつなぐ。そして A、B 拠点からそれぞれの送信されてくる2つの映像を PC で擬似的に重ねて合成する。その際に、それぞれの映像を重ねる処理をしているため、映像は半透明化されて表示される。

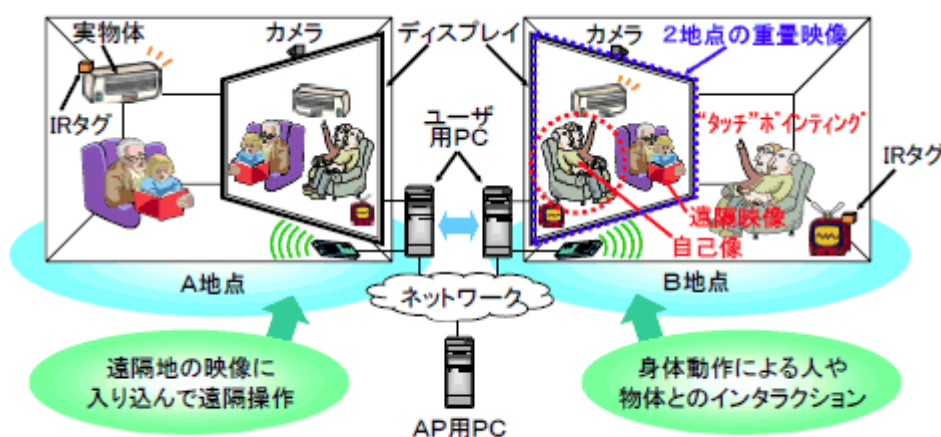
そのため、A、B 拠点のディスプレイには、鏡に映ったような自分と相手とが一緒に映し出され(鏡像反転)、あたかも相手と自分が同じ空間にいるかのごとくの電子的共有空間を作り出す。さらに、その空間で双方向の資料を共有した共同作業やミーティングなどが行える。その共有されている資料なども、半透明化された画像として、A、B 拠点からの映像の上に重ねられて表示される。

この技術によって、バーチャルな共有空間を作り、お互いにその空間に入ることにより、まさに同じ部屋にいるような疑似感覚を持てる。相手の物理的な環境に存在する椅子やテーブル、棚、そして棚にある本や写真などを、自分の手やポインターなどで、遠隔から「それ、あれ」と指示ができ、相手はどの物を指しているのかリアルタイムで理解できる。つまり、同じ部屋で、相手と自分とが「これ、あれ」と、その部屋にある椅子やテーブルを指しているのと同じような感覚だ。

現行のビデオ会議システムなど映像コミュニケーションツールでは、自分の指さしは何を具体的に指しているのかは、視覚的には、にわかには相手からはわからない可能性がある。「それ、あれ」と一方が言えば、もう一方は「これか？あれか？」という確認動作が必要になる。ミラーインタフェースは、

それをカバーする技術でもある。「ミラーインタフェースを使うと、既存の映像コミュニケーションツールよりも、遠隔の相手と同じ場所に居る状況に近くと考えられる。」

(NTT マイクロシ



ミラーインタフェース システム構成図

ステムインテグレーション研究所 主幹研究員 小野澤 晃氏)

「現行のビデオ会議システムだと、遠隔地の人と同じ部屋を共有しているという感覚を持つことが難しいところがあるが、このミラーインタフェースによって、相手と自分とがお互いに離れていても同じ空間を共有している感覚を持つことができる。それは、ローカルとリモート、リアルとバーチャルの、その境を意識しないインターフェイス、その境界を越えることができるシステムということだ。」(同 小野澤 晃氏)

ミラーインタフェースによってバーチャルに共有された空間では、さまざまな共同作業が行える。その共同作業を可能と

するものとして、タッチレス・タッチパネル機能がある。タッチレス・タッチパネル機能は、手や物を、カメラを通して画像認識することによって、共有空間に存在するものに直接触れることなく疑似的にタッチして作動させることができる機能。

また、あらかじめ画面上に機能を埋め込んだボタンを表示しておき、画面に触れることなく、その機能を操作できる。たとえば、先の2者間でパワーポイント資料を共有した場合、お互いの間に資料が表示される。画面上部には、複数のアイコンが表示され、それぞれのアイコンは、資料を開ける、閉じる、スライドを進める、戻すなどの操作機能が埋め込まれている。それらの機能を、タッチレスでタッチすることにより、画面表示されたアイコンを物理的に触れることなく、資料が開いたり、スライドを進めたりできる。

共有するものは、スライド以外には PC のデスクトップ、リアルタイムのストリーミングなど、WindowsPC のソフトウェアであれば基本的に共有は可能だ。共有した資料は、見やすいように自由にその大きさを変えたりすることができる。

その他の可能な操作としては、自分と相手の環境で、相手の室内にある物、たとえば本や室内灯、ベル、クーラーなどに IR タグを設置し、それらを事前にシステム登録をしておく、自分の環境から相手の遠隔にあるそれぞれの物を操作できる。本を指すと、その本の内容についての付帯情報が画面上にツリー状に出てきたり、室内灯を指すと室内灯のランプがついたり、消したり、ベルを鳴らしたり、クーラーの温度調節をしたり、などが行える。

それらの操作をするためには、ポインターを事前にシステムに登録しておく必要がある。たとえば、赤や青色のポインターなど。そうすることにより、そのポインターの動きを、カメラが捉え、それをプログラムのコマンドに変換し、ネットワークを通して対向のミラーインタフェースへテキストで送信される。対向のミラーインタフェースはそれを受信するとともに、そのコマンドに応じた動きに変換し画面上に表示したり、作動させたりできる。

たとえば、相手側にある本(IR タグが付いたもの)を、自

分側から“タッチレス”でタッチすると、その指示をカメラが捉え、コマンド変換されそのコマンドがネットワークを通して対向側のミラーインタフェース送られる。そうすると、そのコマンドに応じてその本の内容情報が表示されたりする。鈴であれば鈴を鳴らし、ライトであれば電気のオンオフを行える。

ミラーインタフェースで使われる帯域は、片道35Mbps で双方向なため70Mbps の帯域を使う。「この研究所のデモ環境ではそのまま映像を IP 化してネットワークで流しているが、たとえば、MPEG などのエンコーダーデコーダーを入れれば、数メガへ抑ええた双方向通信は可能。」(NTT マイクロシステムインテグレーション研究所 研究主任 細谷 英一氏)

このミラーインタフェースの技術を使って現在考えられるアプリケーションとしては、ミーティング、遠隔地との間での製品デザイン、遠隔診断、携帯テレビ電話との連携がある。また、教育分野では、相互の身体的なインタラクションが重要な、フィットネス、ダンス教室などでの活用。さらに、タッチレスのため、さわらないことが重要な場所(病院や食品関連業務等)における情報提示をするシチュエーションでもこのミラーインタフェースを活用できると NTT マイクロシステムインテグレーション研究所では考えている。また、スタンドアロンで使った場合は、インタラクティブで魅力的なプレゼン装置としても使える。



ミラーインタフェース技術を使った「インタラクティブ透明スクリーンシステム(大日本印刷株式会社写真提供)」赤いシールを指に貼り、それをビデオカメラが認識して

タッチレスでメニューをタッチできる。

同研究所では、このミラーインタフェースの実用化を検討している。一例では、現在、大日本印刷株式会社(東京都新宿区)と共同でこのミラーインタフェースを使った「インタラクティブ透明スクリーンシステム」を開発している。

「まずは、スタンドアロンタイプを NTT アドバンステクノロジー株式会社(東京都新宿区)から商品化する予定である。」  
(同 小野澤 晃氏)

### テクノスコープ、内蔵 MCU を搭載した MPEG2 のテレビ会議システムを開発

株式会社テクノスコープ(埼玉県さいたま市)は、昨年 6 月 MPEG2 対応のテレビ会議システム「H-652」を発売。

H.652 は、ブロードバンド回線を利用して高画質(VGA サイズ 640x480、30 フレーム)でテレビ会議が行えるシステム。内蔵 MCU を搭載し、最大 4 拠点間での高画質のテレビ会議が可能。

RJ-45(10/100Base-T)を1口もち、MPEG2 での通信では 6Mbps までサポート。カメラ入力、音声入出力を持つ。外形は、幅 200mm X 高 50mm X 奥行 150mm のボックス型。

特長としては、(1)テレビモニターに接続、(2)リモコンによる直感的な操作性、(3)時計表示による記録が可能(会議記録)、(4)PinP(ピクチャー・イン・ピクチャー)による自画像モニターが可能。

H.252 のオプションとしては、H-652 用のカメラとしてソニー製の「DVI-D100」、キヤノン製の「VC-C50i」。マイクは、ソニー製のエレクトレットコンデンサーマイクロホン「ECM-B40」。

加えて、複数拠点(最大3地点)の画像の 4 分割表示を行うための、テクノスコープ製の「テレビ会議装置用拡張基板」もオプションとして提供している。テレビ会議装置用拡張基板には、2組みの MPEG デコードエンジンを搭載し複数拠点の同時モニターを可能にする。

### NTTPC コミュニケーションズ、H.264 に対応した、15 拠点内蔵 MCU 搭載のテレビ会議システム発売

株式会社NTTPC コミュニケーションズ(東京都港区)は、イギリスの Marconi Corporation 社が開発した、SIP 対応のハイエンド型テレビ会議システム ViPr(バイパー)の新シリーズ「VMC(ViPr Media Center)」の日本国内での輸入販売をする。ViPrシリーズは、画面からワンタッチで操作できるタッチパネル方式。外部カメラを接続しワンタッチで標準カメラとの切り替えが可能で、会議中にパソコンの画面を配信、アプリケーションの共有も行える。

さらに、内蔵 SIP-H.323 ゲートウェイを使用して H.323 端末としても使え、384kbps(H.323 端末としては 128kbps)から 3Mbps の帯域をサポートしている。専用の MCU がなくても最大 15 拠点を結んだ多地点のテレビ会議が可能。

昨年 5 月に発売された ViPr は、送信映像の圧縮を最大 4 ~4.5Mbps の MPEG2 方式でおこなっていたが、今回の VMC は、映像符号化方式に H.264 を実装し、2.5Mbps から 3Mbps の帯域で従来の製品と変わらない映像品質でテレビ会議が行える。Marconi Corporation 社は、H.264 の符号化処理に F.P.G.A.を使った独自 IC を使い、エンコードからデコードまでかかる時間を 100msec 以下に抑え、遠隔通信でも遅延をほとんど感じさせない自然なコミュニケーションが可能という。

製品ラインナップとしては、「ViPr メディアセンター4000 シリーズ」、「ViPr メディアセンター5000 シリーズ」、「ViPr メディアセンター6000 シリーズ」、「ViPr アプリケーションサーバー(SIP サーバー)」がある。

「ViPr メディアセンター4000 シリーズ」は、ディスプレイ、カメラ、マイク、スピーカーが一つに統合されたオールインワンタイプのテレビ会議端末。「ViPr メディアセンター5000 シリーズ」は、ディスプレイ、カメラ、マイクの外付けを前提としたサーバー型専用端末。「ViPr メディアセンター6000 シリーズ」は、操作用タッチパネルだけを残し、カメラ、マイク関係を外付けとした卓上型テレビ会議端末。「ViPr アプリケーションサーバー(SIP サーバー)」は、端末間の呼制御に使われ、1台につ

き 100 端末まで接続が可能。また、冗長化された HA-SIP サーバーのモデルもある。

オプションとしては、ストリーミング配信が可能な「ViPr ビデオサーバー」、ファイヤ・ウォール/NATトラバーサル用の「SIP-FireWall」。ViPr を H.320 端末としても利用できる「H.323-H.320 ゲートウェイ」。会議中の映像音声の録画録音を可能とする「VMI (ViPr Media Interface)」。SIP フォンが ViPr のテレビ会議に音声で参加を可能とする「ユニキャストオーディオミキサー」。一般電話回線、ISDN などの回線からの接続を可能とする「音声ゲートウェイ」。

ViPr シリーズは、世界全体で約 1000 台の販売実績があり、国内では公立病院で 10 拠点の遠隔接続、一般企業では東京と大阪を結んだテレビ会議としての導入もある。アメリカでは、米国連邦政府、裁判所、自治体ネットワーク、学校、医療機関などで導入実績がある。

NTTPC コミュニケーションズとしては、VMC と同社のネットワークサービスと組み合わせた、高品質で安全なテレビ会議ソリューションサービスの提供していく考え。

(CNA レポート・ジャパン Vol.7 No.13 2005 年 7 月 22 日号)

### 富士通ビジネスシステム、オラクル Oracle Collaboration Suite のウェブ会議機能を、Web ヘルプデスクサービスに採用

株式会社富士通ビジネスシステム(東京都文京区)と日本オラクル株式会社(東京都千代田区)は、富士通ビジネスシステムが、オラクルのコラボレーティブ・アプリケーション「Oracle Collaboration Suite」の一機能である「Web Conferencing (ウェブ・カンファレンシング)」を活用した「Web ヘルプデスクサービス」を 1 月 17 日より提供開始したと発表。

富士通ビジネスシステムでは、年間 500 社の顧客に対してヘルプデスクサービスを提供しているが、顧客が抱えるニーズが多様化しているためより迅速な対応をするために、オラクルのウェブ会議の機能を活用する。

障害復旧のためのリモートメンテナンスだけでなく、製品やサービスの情報発信のためのウェブセミナーなどを展開していく。2008 年までに 1000 社への提供を目指す。

Oracle Collaboration Suite は、ウェブ会議、ドキュメント管理、電子メール、カレンダー、携帯電話連携などの機能をオラクルの高機能データベースで一元管理し、高度なセキュリティと堅牢性を兼ね備えた企業向けのアプリケーションシステム。全世界で 2000 社以上導入実績がある。Collaboration Suite は、2003 年 2 月から発売されているが、ウェブ会議やメール機能を搭載したのは、2003 年 8 月から。昨年 9 月に日本オラクルは、「Oracle Collaboration Suite 10g」を発表している。(Oracle Collaboration Suite 関係:CNA レポート・ジャパン Vol.5 No.22 2003 年 12 月 30 日号)

### イスラエルのウェブ会議システム Arel 社、Microsoft Office Live Meeting 用プラグイン Arel Anyware の提携進む

ノルウェーの会議サービスプロバイダー NetconnectSystemsAS 社は、同社のウェブ会議サービスに、イスラエルの Arel 社のウェブ会議システムプラグイン「Arel Anyware」を採用したと発表。

Arel Anyware を Microsoft Office Live Meeting に組み込むことにより多拠点のテレビ会議ミーティングやワイドバンドの音声品質を提供する。

Arel 社は、2005 年 8 月に Arel Anyware と Microsoft Office Live Meeting の統合を発表している。

フランスの Dassault Systemes 社やドイツの meetyoo conferencing GmbH 社でも同様な採用を発表している。

Arel 社のアジア展開では、シンガポール(シンガポールテレコム)、インド、韓国などではパートナーがいるが、今後日本でのパートナー提携を目指している。(同社ビジネス開発担当シニアディレクター Riri Elfassy 氏)

(CNA レポート・ジャパン Vol.7 No.14 2005 年 7 月 31 日号)

## アエスラ北米法人 CEO、イタリア本社マーケティングディレクター交代、北米や海外展開強化

テレビ会議と電話会議システムを開発するイタリアのアエスラ社 (Aethra, SpA) の北米法人である Aethra, Inc. の CEO に新たに Jack Toto 氏を迎え入れた。Aethra, Inc. は、フロリダ州マイアミにある。

Jack Toto 氏は、Med-Media 社、ケーブル&ワイヤレス社、D2 Media 社などで、事業開発、アライアンスやチャネルパートナーマネージメントなどで幹部役職を歴任している。

合わせてイタリア本社 Aethra, SpA の戦略マーケティングディレクター Roberto Filaianni 氏が、国際マーケティング & コミュニケーションディレクターに任命された。海外事業展開の強化を図る。

Aethra, SpA は、Giulio Viezzoli 氏が 1972 年に設立。テレコムイタリアとの関係が強く、テレビ会議システム関連ビジネスは、1990 年代に入ってから本格展開。現在の社長は、Giulio Viezzoli 氏の息子 Marco Viezzoli 氏。北米法人の前 CEO は、Giorgio Viezzoli 氏。日本での販売は、VTV ジャパン株式会社 (東京都千代田区)。

## オランダ、高齢者への医療サービスを充実化させるため IP ビデオコールセンターを導入、オーストリア Scotty 社のテレビ電話 700 台導入

オーストリアのテレビ会議メーカー Scotty 社の発表によると、オランダのヘルスケア関係の事業を行う Sensire 社へ IP ビデオコールセンターソリューションを提供する。

そのソリューションには、700 台のテレビ電話端末が含まれる。700 台のテレビ電話端末を患者などとコールセンターを IP ネットワークで接続し、患者はボタンひとつでコールセンターに IP テレビ電話できる仕組み。映像でのコミュニケーションだけでなく、患者の各種医療データなども取り扱う。

ISDN 環境のみの患者宅に対しては、ISDN と IP をブリッジする装置を提供する (ゲートウェイ)。

IP コールセンターは、Sensire 社が運営するが、一部オランダ政府と、ヘルスケア事業系の Menzis 社からも資金的な支援が行われる。

オランダでも人口の高齢化は進んでおり、今後 10 年から 15 年の間に高齢化人口の割合は、10% から 20% になると予想されている。そのため、医療サービスを提供する従事者不足による高齢者への医療サービスに問題が出てくるのではないかと懸念されている。その対策のひとつとして、この IP ビデオコールセンターを実現させ、高齢者へのサービスを充実化させる。Scotty 社製品は日本では、日本 FA システム株式会社 (神奈川県横浜市) が販売している。

## ショートニュース項目

◆ポリコムジャパン株式会社 (東京都千代田区) は、米調査会社フロスト & サリバン社より、グローバル ビデオ会議システム市場における「2005 Market Leadership Award」を受賞したことを発表。音声、ビデオ、データを統合する会議システムを中心とした豊富な製品ラインを持ち、市場シェアやブランドの認知度が高く、財務状況も安定している点や Alcatel、Avaya、Microsoft、Nortel との提携により、IP テレフォニーとプレゼンス機能にビデオ機能を統合した点も評価された。

◆電子ボード「SMART Board」を開発販売するスマートテクノロジー社 (本社カナダ) は、1991 年以来これまでに 37 万 5000 台以上の電子ボードを 75 カ国に出荷してきた。その内の 25 万もの教室で同社の電子ボードが活用されているという。イギリスでは、58.2% のシェア、またメキシコ政府が 12 万台以上の電子ボードを購入したが、その内の 4 万 3000 台以上は同社の製品。日本法人は、日本スマートテクノロジー株式会社 (東京都千代田区)。

## Videoconferencing Insight ニュース

イギリスのテレビ会議専門誌掲載のニュースからピックアップしました。

<http://www.vcinsight.com/>

◆米ウェブ会議サービス大手 WebEx Communications 社は、ニューヨークで 2005 年 12 月 20

日に発生した地下鉄ストライキによって影響を受けた企業向けにウェブ会議サービスを無償で提供した。

◆インターネットでインスタントチャットコミュニティを運営する



Paltalk は、ライブの音声とビデオチャットの無償サービスを2005年12月20日に発生した地下鉄ストライキで影響を受けた人達向けに提供した。

◆オーストラリアの通信事業者 Telstra 社は、同社のウェブ会議サービスのプラットフォームにマイクロソフトの Microsoft Live Meeting を採用した。既に TelStra 社内でのミーティングに Microsoft Live Meeting を使用しているが、同社の顧客向けサービスでも提供する。また今年3月には、TelStra 社で提供している電話会議サービスと Microsoft Live Meeting を統合する予定。同社では、Microsoft Live Meeting 以外には、既に Microsoft Exchange や Sharepoint のホストサービスも提供している。



◆台湾の Leadtek 社は、1月にラスベガスで開催された CES にて、H.264 に対応した IP テレビ電話「XTP8830」を展示。IP テレビ電話

だけでなく、IPTV、

ストリーミング、VoIP、一般電話通話に対応しているという。CES2006 デザイン&イノベーション賞を受賞。

## セミナー・展示会情報

### 株主総会・IR ソリューションフェア

会期:2006年1月31日(火)～2月1日(水)

10:00～17:30

会場:株式会社東和エンジニアリング

TOWAROW PLAZA

主催:東和エンジニアリング法人ソリューション本部

\*LifeSize の展示など。

詳細:

<http://www.towaeng.co.jp/event/2006/0131-irsol.html>

### NET&COM 2006

会期:2006年2月1日(水)～3日(金) 10:00～17:00

会場:東京ビッグサイト

主催:株式会社日経 BP

展示会主ページ:

<http://expo.nikkeibp.co.jp/netcom/index.shtml>

テレビ会議パビリオン:

<http://expo.nikkeibp.co.jp/netcom/pavilion/P04.shtml>

\*テレビ会議システム関連の展示がある。

NEC エンジニアリング、丸紅テレコムなどの出展。LifeSize 展示は、プリンストンテクノロジー、日立ハイテクノロジーズ。

### Web 会議ソリューションセミナー

日時:2006年2月9日(木) 15:00～17:00

場所:NEC ネクサソリューションズ株式会社

ネクサソリューションプラザ

主催:NEC ミドルウェア事業部

\*Web 会議システムの「コミュニケーションドアエクスプレス」の紹介。導入事例紹介、デモ。

詳細:

<http://www.sw.nec.co.jp/semi/cmdr060209/>

### ソニービデオ会議システム「PCS-TL30」 展示

期間:2006年2月1日(水)～2月28日(火)

10:00～17:00

会場:ソニーマーケティング株式会社本社 1F ロビー (JR 品川駅前)

主催:ソニーマーケティング株式会社

\*予約不用。総務のプロ「クミコ先生」の企業力向上プロジェクト)冊子と粗品をプレゼント。

詳細:

<http://www.sony.jp/products/Professional/seminar/>

### コンプライアンスセミナー

日時:2006年2月3日(金) 15:00～17:00

場所:三鷹産業プラザ 5F

株式会社ブイテック ショールーム内

主催:株式会社ブイテック

セキュリティ関係のセミナー。テレビ会議システムにおける TANDBERG 社の AES 機能(暗号化)の紹介もあり。

詳細:

<http://www.v-tech.co.jp/seminar/index.html>

### 編集後記

2月はニュース記事に加えて NASDAQ 上場会議メーカー等の2005年第四四半期の業績発表のレポートなどをいたします。今号もお読みいただきまして誠にありがとうございます。CNA レポート・ジャパン 編集長 橋本啓介